



# 谷原小だより 時評

令和元年3月12日  
練馬区立谷原小学校  
校長 池上 育志

## 令和元年度 学校関係者評価の結果のお知らせ

日頃より谷原小学校の教育活動にご理解、ご協力くださりありがとうございます。谷原小学校では、保護者、地域、学校関係者の皆様の信頼に応えるべく、よりよい教育活動を目指して毎年、教育課程等の改善、充実を図り、実施をしています。今年度の教育活動も、学校の教職員の自己評価、保護者アンケート、児童アンケート、学校関係者評価委員の皆様のご意見をもとに、学校評価として取りまとめ、次年度の教育課程改善に向けた指針としています。保護者の皆様には、アンケートにご協力いただいたことに感謝いたします。

以下に、学校評価の結果をお知らせするとともに、来年度に向けた改善の方向性等を示します。今後とも、谷原小学校の教育活動へのご理解とご協力をお願いします。

### 1 自己評価結果の概要

#### ○ 学力の定着と向上について

授業改善により知識・技能の定着、思考力・判断力・表現力の向上、学ぶ意欲や学び方、情報活用能力の向上に引き続き努めてきました。谷原小スタンダードを活用した授業規律の徹底、家庭学習や繰り返し学習への取り組み、考える場や思考の可視化に取り組んできました。特色ある教育活動として進めているプログラミング教育推進に関連して、ICT機器を活用した授業の充実を図ることができました。

児童・保護者によるアンケート結果では、児童の89%、保護者の86%が「授業が分かりやすい」と肯定的な回答でありました。また、「少人数算数の授業が分かりやすい」という児童の回答は90%でした。

次年度も引き続き、全教員で共通理解を図りながら、体験学習、作業的な学習、ペア学習やグループ討議等の考えの交流を積極的に取り入れ、児童が主体的、対話的で深い学びができるような授業改善とICT機器活用等による可視化を通した分かりやすい授業を通して、学習への興味・関心を高め、学力の定着と向上を図ります。

#### ○ 豊かな心の育成について

いじめ・不登校等、生活指導上の課題について学年間や校内委員会での情報共有、校内の専門性をもつ教員等の助言と活用、外部関係機関との連携を通して解決を図ってきました。また、いじめ等の早期発見に係るアンケート、スクールカウンセラー5年生全局面談等を計画的に実施し、課題の防止に努めてきた結果、「学校が楽しい」と回答した児童85%、保護者86%、「思いやりの気持ちをもって、他の人に優しくしている」と回答した児童84%、保護者85%となりました。アンケート、個別聞き取り、情報共有を継続し、優しさや思いやり等の心情を高める道徳教育、いじめ防止、規範意識を高める授業等、課題を予防、防止する教育の充実をさらに図ります。

自己肯定感を高める活動として、きょうだい学年の活動、幼稚園児・保育園児、中学生、地域の福祉施設を利用している方々との交流等の異年齢の人々と触れ合う活動と振り返りを実施してきました。結果、「自分のしていることは、人の役に立っている」と回答した児童75%、「自分にはよいところがある」と回答している児童77%と昨年度とほぼ同等でした。学級・学年等の集団の中での役割を自覚させ、児童の頑張りを教員も児童も認めていくことを基本とし、自尊感情、自己肯定感を高めることに力を入れてまいります。

#### ○ 健やかな体の育成について

児童アンケートにおいては「運動が好き90%」、「運動を続けたい92%」、「めあてをもち学習した90%」と昨年度よりも高い結果となりました。運動習慣状況調査における「運動が好きである」という児童の回答も90%を超えています。一方、今年度の新体力テストの結果について見ると、全体で96項目中40項目のみが全国平均を上回る結果に停まっています。そこで、来年度は校内研究の教科を体育科とし、児童の願いに応じられるように授業改善を推進し、体力向上への取組をより一層充実させてまいります。

危険なことから身を守る力の育成においては、セーフティ教室等の行事、安全点検、SNSルールの指導等を実施しました。「危険なことから身を守る力が付いた」と回答した児童は86%、保護者75%と若干下がっていました。変化の激しい現代にあって、児童や保護者が感じる身の回りの危険も年々変化してきています。指導計画等を常に更新することで、今後も、不測の事態における児童の安全確保とともに危険を回避する行動がとれるように指導と管理体制を充実させてまいります。

#### ○ 社会の発展に貢献しようとする心の育成について

昨年度より、地域連携事業が開始され、外部人材等を計画的に活用して、町探検、地域の農業の学習、農園活動等の体験的な学習を進めてきました。「地域が好き、役に立ちたい」と感じている児童は83%（昨年度比8ポイント増）でありました。地域連携事業を活用した地域の学びを充実させてまいります。

学校の様子を計画的に発信し、「学校の様子がよく分かる」と回答した保護者は昨年度より2ポイント増えて、89%にまで高まりました。より積極的に学校の様子を発信したり、学校行事等への参加・協力を呼びかけたりして、教育活動の理解を深めていくことを継続していきます。

(裏面に各項目の自己評価、学校関係者評価の詳細を掲載しております。)

## 2 学校関係者評価結果について

### (1) 概要

#### <成果>

具体的方策に対して努力指標や成果指標を設定し、評価を実施することで評価の信頼性が増し、適正な評価ができていくという評価を得ることができました。次年度の具体的方策に基づいた改善策についても、方向性は適切であるという肯定的な評価を得ることができました。

「学力の定着と向上」においては、谷原小スタンダードとして学習規律等が徹底されていくことは望ましいことであり、学校での学習活動が充実し、学力の定着や向上へ向かうために有意義なことであるという評価でありました。

「豊かな心の育成」においては、いじめアンケート調査や情報交換等により、いじめ防止に取り組んでいることが、いじめの早期発見・解決をめざす取組につながっていると評価を得ました。また、きょうだい学年交流や学校行事の実施において体験的な学習として肯定的な評価を得ました。

「健やかな体の育成」においては、体力の向上や健康教育・安全教育に取り組んでいることで、一定の成果があるという評価を得ました。

「社会の発展に貢献しようとする心の育成」においては、学校農園での栽培活動を実施していることに対し、児童に自然体験や地域の特色等を体験させることに効果があると評価を得ました。

#### <課題>

「学力の定着と向上」においては、ICT 機器をさらに有効活用し、ユニバーサルデザイン化を図り、指導のより一層の充実を求める意見がありました。また、谷原未来塾の運営として、学習の補充を行い、学習内容の定着を図り、児童がその成果を実感できるような取り組み（例えば漢字検定など）も視野に入れたらよいのではないかという意見がありました。

「豊かな心の育成」においては、「学校が楽しい」と回答しなかった 10%程度の児童への対応を進め、「学校が楽しい」と感じられるよう、挨拶や言葉遣い等の言語環境整備と挨拶運動等の取組を推進するとともに、いじめや不登校防止の取組を継続して行っていくことが必要であるという意見が出されました。また、様々な学校行事は、児童の思い出に残るものであり、学校生活の中で重要な位置を占めるものであるため、内容を十分精査の上実施するよう要望がありました。

「健やかな体の育成」においては、現在、学校が取り組んでいることを継続・充実させて、より児童の体力向上のために指導してほしいという意見がありました。

「社会の発展に貢献しようとする心の育成」においては、学校や地域の歴史やよさを学ぶ機会を継続して設けることや地域行事への参加について課題があるという評価となりました。

### (2) 学校関係者評価を踏まえた次年度の方策の概要

#### 「学力の定着と向上」

- ・分かりやすい授業のため、授業のユニバーサルデザイン化（学習のめあてと流れの明確な提示、ICT 機器活用等による見える化等）を学習スタンダードとして位置付け、実践化を図ります。
- ・プログラミング教育の実践検証を通して、考える場の設定や考えを可視化することで、主体的で対話的な学びを推進します。
- ・今後も朝読書、親子読書、読書週間等の機会を設け、読書への意欲を喚起していくとともに大人も読書にかかわれるよう啓発や取組の工夫を図ります。

#### 「豊かな心の育成」

- ・いじめ防止に関する授業、「特別の教科 道徳」の他者との関わりの授業、人権課題「子ども」に関する授業、SOS の出し方教育等、いじめ防止や自殺防止に向けた授業を実施します。
- ・特別支援教育の視点からの支援とルールやモラル等の規範意識を高めることの両面から、谷原小スタンダードに基づいた指導、児童を中心としたあいさつ運動の推進、言語環境の整備を推進します。
- ・きょうだい学年、幼保小中等の様々な交流活動を教科・領域の中へも取り入れ、活動についての振り返りと共有を行うことで、自分の頑張りが学校の役に立っていることを自覚させて自己肯定感を高めます。

#### 「健やかな体の育成」

- ・オリンピック・パラリンピック教育指導計画を見直し、運動能力や体力の向上を重点とし、各教科・領域内で確実に実施します。
- ・体力向上についての年間を通しためあてをもたせ、達成の意欲を高めます。
- ・基本的生活習慣の確立に向けた計画的な指導を進めるとともに、家庭への啓発を図ります。
- ・情報教育年間指導計画を見直し、情報モラルを情報活用能力に位置付け、計画的な指導を実施します。

#### 「社会の発展に貢献しようとする心の育成」

- ・学校農園活動、地域連携事業等を活用しながら、地域の方々との交流の機会、学校や地域への思いを聞く機会を設けることに努めます。
- ・学校情報の発信を推進するとともに継続して学校行事や地域行事への参加を呼びかけます。